

# 活動成果報告書

令和5年度（第27回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 生きやすい地域にするために ～峡東保健所管内3市とともに取り組む女性の自殺防止対策～	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 山梨県峡東保健所 地域保健課 代表者：小西 裕子	
勤務先：山梨県峡東保健所 所 属：地域保健課 所在地：〒405-0003 山梨県山梨市下井尻126-1 TEL：0553-20-2752 FAX：0553-20-2754	

## ◇活動方針

峡東保健所は、山梨市、笛吹市、甲州市の3市を管轄する保健所であり、管内人口は約13万人である。

山梨県及び峡東管内各市では、地域自殺対策計画を策定し、誰も自殺に追い込まれることのない地域づくりを目指して、関連施策と連携し総合的かつ包括的に取組を推進している。峡東保健所では、平成20年度に峡東地域セーフティネット連絡会議を設置し、地域の実情に応じた取り組みを進めてきた。峡東地域セーフティネット連絡会議は、保健所・県の担当者の他、管内の市、消防本部、警察署、精神科病院、教育事務所、商工会、産業保健センター、労働基準監督署といった、保健、医療、福祉、教育、労働の関係者から構成されており、会議と研修会を各1回程度開催している。

管内の自殺者数は年間20名程度で男性に多く、60～70代に多い傾向にあるが、一方で全国と同様に、女性の自殺者が増加傾向してきている。しかし、管内の実態について把握しきれていないところもある。実態調査と並行して、管内3市とともに当事者を含めた取り組みを行う。

## ◇活動内容

### ① 管内市精神保健福祉担当者会議の開催

- ・保健所と市は日頃から密に連携をとり精神疾患を抱える住民への支援を行っている。
- ・今回、管内市及び保健所精神保健福祉担当者が各自治体の現状や取組状況について情報交換し、課題等を共有することを目的に担当者会議を開催した。

### ② 自殺企図者の実態調査

- ・先行研究で自殺の最大の危険因子として指摘されている自殺未遂歴に着目し、峡東地域の自殺企図者の傾向を把握するため、峡東地域を管轄する2つの消防本部の協力を得て、自損行為（自殺企図）により救急出動した事例について調査を依頼した。

# 活動成果報告書

・調査期間は令和2年から令和4年の3年間とし、調査項目は、自殺企図者の年齢・性別・居住地・手段、救急搬送の有無、不搬送の理由等とした。

## ③ 「生きづらさ」をテーマとした講演会の実施

・これまで峡東地域セーフティネット連絡会議研修会の対象者は関係者のみとしていたが、今回、対象者を一般住民にも広げ峡東3市合同で開催した。

・周知には、峡東地域セーフティネット連絡会議の構成員や、行政・医療・福祉・教育の関係機関、住民組織にチラシを配布するとともに、峡東管内3市の広報や、インターネット、新聞、テレビ、ラジオといった媒体も活用した。

・講師は、ひきこもりの人や生きづらさを感じている当事者のメッセージを紹介するラジオ番組の司会者と、峡東保健所の精神保健福祉相談員に依頼した。当該ラジオ番組の手法を取り入れ、申込は匿名可能とし、「生きづらさ」のメッセージを募集し、講演会の中で紹介することとした。

・研修会の効果と当事者のニーズを把握するため、講演会後にアンケートを実施した。

## ◇活動成果

### ① 管内3市精神保健福祉担当者会議の開催

・管内市及び保健所精神保健福祉担当者と、今年度の管内各市の事業の企画、実施状況や自殺対策計画の進捗状況について情報交換ができた。

・管内3市では女性の自殺防止対策として、ゲートキーパー養成研修、産前産後ケアセンターの利用促進、自殺未遂者の実態把握等女性に焦点を当てた取組を行っていることを共有した。

・近年、女性の自殺者数の増加とともに、女性のひきこもりも増加しているが、「自殺」「ひきこもり」とともに、当事者から話を聞くことは難しく、そこに至る要因は潜在化している。実態把握の必要性や普及啓発の重要性について共有し、ともに取り組むこととした。

### ② 自殺企図者の実態調査

・峡東地域の消防本部への調査から、令和2年から令和4年の3年間に自殺企図で救急要請のあった峡東管内の住民は128人で、男性65人、女性63人とほぼ同数であった。

・自殺未遂者は100人、自殺死亡者は28人であった。女性は未遂にとどまる傾向にあった(図1)。

・自殺企図者の平均年齢は47歳で、男性は52歳、女性は42歳であった。20代の女性が18人と最も多かった(図2)。

・自殺企図手段については複数手段を含む137件の回答があり、首つり、薬物ともに48件と多かった。男性は首つりが32件と多かったのに対し、女性は薬物が33件と多かった。

・上記より、女性の自殺企図者の特徴として、致死率が低く、若年層に多く、手段として薬物の割合が高い傾向にあることが明らかになった。管内の女性の自殺者数は3年連続で増加しており、自殺の危機にある人への支援が充分に行き届いていないことが考えられた。自殺の危険性を見逃さないよう注意し、一人一人が積極的に関心をもって行動する必要性が強く示唆された。

# 活動成果報告書

図1 性別と自殺死亡者・自殺未遂者

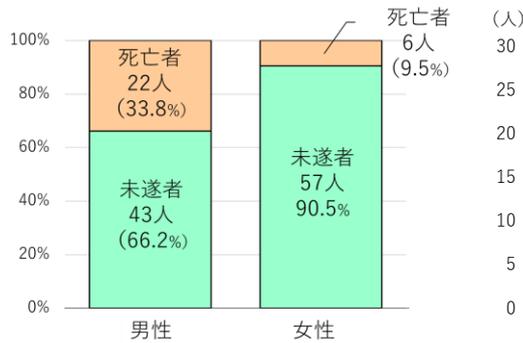
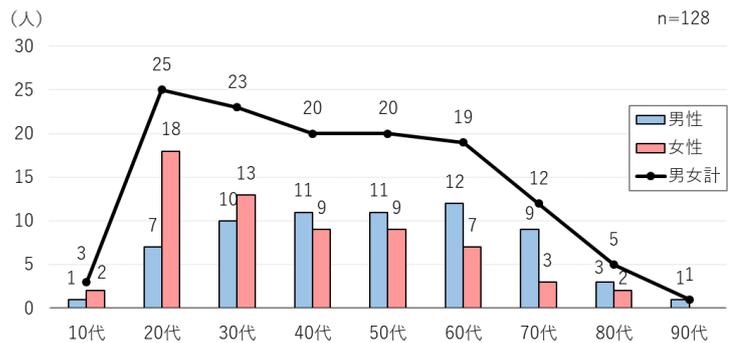


図2 性・年代別の自殺企図者数



### ③ 「生きづらさ」をテーマとした講演会の実施

- ・申込者は127名、参加者は110名であった。
- ・「生きづらさ」のメッセージは、10代～70代の幅広い年代から27件集まった。
- ・講演会では、ラジオ番組の司会者であるアナウンサーと、峡東保健所の精神保健福祉相談員が実際の現場での話も交えて対話形式で進行し、事前に集まった「生きづらさ」のメッセージを紹介した。メッセージは、社会の風潮に関するものや人間関係等様々であった。
- ・ラジオと同様に枠組みを作らず、解決の方向性も提示せず、参加者と「聞く」ことに徹した。(図3)
- ・講演会後のアンケートには47名から回答があった。(表1)
- ・アンケートの結果からも、生きづらさは誰にでもあり、多様であることが参加者と共有できた。また、当事者の思いをただただ聞ける場があることが安心や心地よさを生み出し、声を出せない人が声をあげてもいいと思える環境づくりを進めることが重要と考えられた。

図3 講演会の様子



表1 講演会後アンケート結果

(※自由回答から多かった回答 上位3つ)

生きづらさとは何か (※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰にでもあるもの</li> <li>・多様であるもの</li> <li>・価値観の押しつけ</li> </ul>
生きづらさを感じたときに必要だと思うもの (※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話せる場所</li> <li>・聞いてくれる場所</li> <li>・つながりを持つことができる居場所</li> </ul>
その他の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心感があった</li> <li>・心地よく感じた 等</li> </ul>

### ◇今後の計画

- ・山梨県公衆衛生研究発表会にて発表し、公衆衛生等に従事する県職員と情報交換を予定している。
- ・今回の取り組みを峡東地域セーフティネット連絡会議にて共有し、意見交換を行うとともに、今後の取り組みの方向性について検討する。
- ・自殺企図者への自殺予防対策として、若年女性への対策を検討する。
- ・今回女性に着目したが、講演会の取り組みからも、自殺のリスクのある人、生きづらさを感じる人は幅広く存在することが予測された。今後も様々な機関と連携し、年代や性別に限定せず、背景や要因に応じた包括的な取り組みと声を上げやすい場を作ることを検討する。